

市に4万円寄付

旧日向別邸保存会 施設見学者らの善意

旧日向別邸保存会(中井正勝会長)は12日、旧日向別邸(ブルーノ・タウト熱海の家)＝熱海市春日町Ⅱの保存基金に寄せられた浄財4万3070円を熱海市に託した。同



日、市文化会館で開いた総会の冒頭、中井会長が市文化交流課の山田秀明課長に手渡した。山田課長は「皆さんの熱意を無駄にしないように、大切に活用させていただきま

す」と話した。同会はドイツ生まれの建築家ブルーノ・タウトが設計した地下室を有する旧日向別邸の維持・保存に寄与することを目的に昨年4月に発足。以来、広報活動を中心に、講演会などを実施してきた。昨年10月以降は同施設に基金箱を設置。見学者

らに浄財を募った。今回は市内外の有志から保存会に直接寄せられた浄財とあわせて市に寄付した。中井会長は「社交室の天井からつり下げられている裸電球が生産中止になった。見学者からも

電球をつけてほしい」という要望があるので、裸電球の確保など、維持・保存のために役立ててもらえれば」と話した。この日の総会では、本年度の事業計画、収支予算案などを審議。事業としてはNPO法人化に向けて準備を進めることや

3回にわたる講演会の開催を決めた。保存基金を募る活動にも重点を置き、その一環として新たなオリジナルグッズの製作、販売を行い、売り上げの一部を基金に寄せる計画。



旧日向別邸の保存基金を託す中井会長(左)＝市文化会館